

# 渡辺大三 NEWS



●発行 小金井市議会会派 リベラル保守の会 ●編集 情報公開こがねい / 渡辺大三事務所

〒184-0012 東京都小金井市中町 3-25-10-201 電話 090-3345-6929 FAX 042-381-5074

watanabedaizou@gmail.com

twitter でも市政報告しています ⇒ watanabedaizou

## 市長らのボーナス引き上げを厳しく批判

### 市長、副市長、教育長の引き上げは撤回に追い込む

いつもお世話になりありがとうございます。今年最初の市議会 NEWS です。お忙しいと思いますが、御一読いただければ幸いです。

稲葉市長は、12月定例議会に、市長・副市長・教育長・市職員のボーナスを6.3%引き上げるとの条例案を提出しました。

「赤信号、みんなで渡ればこわくない」とでも思ったのでしょうか・・・市議会議員の引き上げに関しても、市長側から議会に打診がありましたが、議会は応じませんでした。

私は、現下の小金井市の財政状況や、市政を取り巻く諸条件から考えて、市長・副市長・教育長・市職員のボーナス引き上げは行うべきではないと考え、市長の提案を委員会等で厳しく批判しました。

小金井市の財政状態は、直近決算で、多摩26市中ワースト1位です。下表は、本年度末の小金井市及び近隣市・類似市の財政調整基金残高の見込み額です。このような財政状態でボーナスの引き上げなど許されるわけがありません。

武蔵野市	60億9391万2000円
府中市	53億0776万4000円
調布市	43億9594万6000円
昭島市	36億4284万8000円
小平市	33億3049万3000円
西東京市	30億0043万8000円
三鷹市	28億9292万7000円
多摩市	28億1808万0000円
東久留米市	26億3393万0000円
国分寺市	24億2071万5000円
小金井市	7億2622万5000円

私の批判を受けて、稲葉市長は、市長・副市長・教育長のボーナス引き上げは撤回しました。

しかし、稲葉市長は、市職員の基本給やボーナスを引き上げるとの条例案は再提出しました。その財源は、枯渇寸前の財政調整基金の約一割、7600万円を取り崩すというもので、今後多額の支出を要する事業(ごみ処理など)が山積している小金井市の財政運営に悪い影響を及ぼす内容でした。

結果として、この条例案は、賛成15 反対7 病欠1で可決されました(詳細及び会派別・議員別の採決態度は、一緒に配っております「リベラル保守の会 NEWS」を御覧ください。私が本会議で読み上げた反対討論も全文掲載しています)。

## もっと頭を使うべき

市長、庁舎建設による賃借庁舎解消を先送りへ  
床面積縮減プランの検討が急務

稲葉市長は、昨年9月の定例議会に、「賃借庁舎(第二庁舎)を大地主から時価で買い取る」「蛇の目ミシン工場跡地(庁舎建設予定地)への建設は凍結する」との趣旨の提案を突然行い、購入予算を提出しました。大地主との密約は、市民にも議会にも知らせない「秘密交渉」の果てに締結されたもので、非常に怪しいものでした。

稲葉市長は、購入すれば今後年約1億円の財政効果があると説明しましたが、私など野党側の指摘により、かえって負担増になる危険性もあることが判明。篠原議長が購入予算の撤回を市長に進言するに至りました。市長は、進言を受けて購入予算を撤回しました。

その後、昨年12月定例議会に、稲葉市長は、本

庁舎の耐震調査を行うとの補正予算案を提出。議会多数はそれを可決しました(私は反対)。

結局、稲葉市長は、あくまで蛇の目ミシン工場跡地への新庁舎建設は先送りしたい(建てたくない)・・・ということなのでしょう。

いま小金井市の市長に求められているのは、「もっと頭を使う」ことだと思います。

確かに、庁舎建設基本計画では、必要な床面積を1万3000㎡ほどで見込んでいます。しかし、現在の本庁舎と賃借庁舎の床面積の合計は約8700㎡であり、それと同等の床面積を安価な工法で建設すれば、中古物件である賃借庁舎を時価で購入したり、老朽化が著しい本庁舎に多額の費用をかけて耐震改修したりしなくても済むわけです。

稲葉市長は、「1万3000㎡を一括で建てる」「それには財源がない」「だから蛇の目ミシン工場跡地への建設は凍結する」という奇妙な三段論法を展開していますが、本音で言っているとしたら知恵がないし、「賃借庁舎を大地主さんのために買ってあげる。それが無理なら借り続けてあげる」という本音を隠すためにそういう論法を用いているなら悪質です。そもそも、庁舎建設の財源がないと言いながら、自分のボーナスは上げようというのは自己矛盾です。まったく理解に苦しみます。

ただちに、蛇の目ミシン工場跡地に床面積を縮小して庁舎建設を行う準備を始め、賃借庁舎の契約はもう更新しない。それが小金井市にとってのベストシナリオです。

そのためにも、市民の力で、市政と大地主との癒着を断ち切る必要があります。

## 「平和の日条例」に修正案

加害の事実から目をそらす条例は疑問

昨年12月定例議会に、稲葉市長は、小金井平和の日条例案を提出しました。毎年3月10日(東京大空襲の日)を小金井平和の日にしたいという内容です。

そのこと自体は肯定的に考えますが、市長案にはいくつかの問題点がありました。

問題点とは、(1)「二度と戦争を繰り返さない」との意思表示が書かれていないこと、(2)先の大戦において、我が国が周辺諸国を加害した歴史的事実がまったく書かれていないこと、(3)市が記念事業を行うとだけ書かれており、市民が行う平和事業への支援が欠落していること、などでした。要するに、「小金井に空襲があったとされる」「東京には空襲があった」その被害の記憶を後世に伝えましょう・・・というだけの内容なのです。

本当に平和を考えるなら、我が国が受けた被害のみならず、我が国による加害の事実(もちろん、いま問題になっている大新聞の誤報など不正確な情報は除く)からも目をそらす、後世に伝えていかなければなりません。

そういう考えに立って、他会派と共同で、市長案に対して修正案を提出しました。

残念ながら、修正案は、賛成10 反対12で否決され、問題が多い市長案が可決されてしまいました。

## サポーター募集中

渡辺大三事務所では、いっしょに小金井市政を考え、行動する仲間(サポーター)を募集中です。

入会金や年会費はありません。サポーターになっていただいた方には、会報を郵送し、市政報告会などのご連絡をいたします。

「サポーターになってもいいよ」という方がおられましたら、表面の連絡先に、郵送、FAX またはメールでご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

### ◎渡辺大三の自己紹介◎

◎1966(昭和41)年、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市・宮城県仙台市・山形県山形市を経て、小学校3年生のときに小金井市に転入。◎小金井市立本町小学校・小金井第一中学校、東京都立小金井北高等学校、中央大学法学部政治学科卒業。◎株式会社河北新報社(本社=仙台市)に新聞記者として就職、編集局配属。同社退職後、小金井市に戻り地元衆議院議員の私設秘書を2年間務める。◎1993(平成5)年、26歳で小金井市議会議員選挙に初当選。以降、6期連続当選(直近3回の選挙は無所属で立候補し当選)。現在に至る。

◎現在=議会関係では、議会運営委員、総務企画委員、行財政改革調査特別委員、議会報編集委員、十一市競輪事業組合議会議員、六市競艇事業組合議会議員、所属党派「リベラル保守の会」副幹事長、を務める。地域では、小金井市商工会参与、小金井市商工会総代、貫井北町商工振興会事務局長、中町親愛会相談役、中央大学学生会(同窓会)小金井支部幹事、東京都立小金井北高等学校同窓会幹事長などを務める。

◎趣味=ダイエットと適度な筋トレ、フルート(超初心者です)、カラオケ、愛犬との散歩、料理。

◎身長=179.5cm 体重=68kg前後を変動中。